

住民の安心できる「遠賀川河口堰」

完全な河口堰で水源の確保を

水巻町長 伊藤衛門

遠賀川河口堰問題は本町にとっては大変重大な問題であります。このことについて皆様方にご心配をおかけしますとともに説明会や協議会等いろいろご迷惑をおかけしておりますことを心からお詫びいたします。

町といましては、昭和四十四年から中間市、遠賀郡で対策協議会をつくり、この問題にとり組んでまいったのでありますが、当初からの町の基本的態度は、一、河口堰の建設により、住民に被害を与え、住民に犠牲をしいることがあつてはならない。二、遠賀川の水は遠賀川と生活をともして来た流域住民のものであるから、それによる利水は地元優先であり、地元有利でなければなりません。

この原則に立ち、折衝を重ねた末、本年十月十五日関係機関の代表者の協議により、大綱的な了解に達したのであります。ご存知のように、水巻町は遠賀川の流域にありながら水利権を有せず、北九州市と中間市から水道用水を分水してもらつておりますが、近年の開発状況を見ると、ここ二、三年のうちに水不足となることは必至であります。したがって、水道行政からい

ば河口堰により水源の確保をはかりたいというのがいつわらないところであります。しかしながら、河口堰による被害の問題はことと天秤にかけられるものではありません。そこで影響調査について、国県に要請するのみでなく町独自の調査を実施し、万全を期すとともに対策工についても充分安心出来るものを実施させることにしております。このように町としましては、皆さま方に安心の出来る安全な河口堰をつくるよう精一杯の努力をしておりますので、皆様方のご理解とご協力のもとに河口堰の建設がすゝめられ、水道問題の解決がはかられますようお願いいたします。

住民の犠牲は許さない
安心のできる建設を

水巻町河口堰対策協議会長 入江 誠

河口堰をつくることについて十月二日、県知事から地元協力を要請がありました。現在、中間市、遠賀郡四町とも都市計画を進めており、特に水巻町は三万人の町づくりに急ピッチです。その水源をどうするか。今分けてもらつている北九州、中間両市とも不足しているの、水巻は独自でも水を確保しなければなりません。しかし、河口堰をつくること、住民不安増大も重視しており、その解消のための施策も私たちの務めです。そのために水巻町は独自で、九大の名誉教授松下先生に地質調査の依頼をしたわけですし、北九州市議会の答弁問題もとりあげたのです。「議会だより」でも申し上げましたように、地元有利

益をもらさないと絶対反対です。河口堰をつくることによつて、町が今よりずっと良くなることを願ひ努力していきたいと思ひます。町全体の排水路計画の根本的変更や、長い間の懸案である鉱害復旧も堰建設前に一挙に解決しなければなりません。そのためにも不安解消に努め安心して住める町となるよう建設問題を討議してまいりますので、地元の問題はどしどし連絡してください。その声を主体に河口堰対策協議会では十分に検討し、国、県と交渉してまいります。今までの交渉経過は議会だよりや今月の町広報臨時号で詳細に報じておりますので、みなさんのご理解とご協力に役立てばと願ひております。

遠賀川河口堰とは

位置	猪熊(河口より2km 工場団地地点)
河口堰の長さ	五・一七〇m
常時満水位	標高一・五m
型式	可動堰
取水量	水道 一日七万m ³ 工業用水道 一日十万m ³
建設費	一三〇億円
建設費負担割合	治水 二九・二% 水道 二九・二% 工業用水道 四一・六%